

研究者氏名：鈴木 雅貴

調査・活動テーマ：子育て世代をターゲットとした地域活性化

調査・活動の目的

クラシティ半田の1・2階は空き店舗も増え、活性化とは逆の方向にあるが、3階の子育て支援センター（通称：「はんだっこ」）については、全天候型で土日も運営しており、需要はとて高い状況にある。

そこで、子育て世帯をターゲットにした地域活性化を目的に、NPO 法人 共育ネットはんだと連携して、ワークショップや実地検証に取り組む。

調査や活動の取組内容および達成状況・成果内容

- ・月に1回以上のミーティングを行い駅前活性化について活動メンバーと日本福祉大学の学生を含め協議を繰り返した。
- ・共育ネットはんだと協力し、子育て世代の人たちと意見交換や駅前活性化についての聞き取り調査などをおこない、子育てイベント「ぴよんぴよんフェスタ」の開催日には、子供向け食べ物を販売してもらった。
- ・クラシティ半田3階にあるはんだっこ利用者に対して、駅前活性化に対するアンケート調査を行った。
- ・アンケートをもとに、クラシティ半田1・2階で子育てをテーマとした事業「ぴよんぴよんフェスタ」を1日行い、子育て世代向けのお店を集めることによって、人の賑わいが創出できるか実験・検証してみた。

【仮説】

クラシティ半田内の商業店舗が減少しているが、3階のはんだっこの利用者には大きな変動はない。そこで、はんだっこ利用者である子育て世代をターゲットとした駅前作りを行うことで、子育て世代の回遊性が生まれ、それが経済効果の向上につながるのではないかとという仮説を立てた。

【検証】

上記の仮説を検証するため、はんだっこ利用者

にアンケート調査を一週間行い利用者の中から、約300のアンケートを回収した。また、学生と一緒に聞き2日間にわたり約10名の聞き取りアンケートも行った。

<結果内容>

- Q1. クラシティ半田や駅周辺に望むことについて
飲食店（カフェ）子連れOK、座敷付き、パン屋、お弁当屋さん、子供服のリサイクルショップ、雑貨屋、100円ショップ、ドラッグストア、本屋、ベビザラス、赤ちゃん本舗、ママ会に使える貸しスペースなど
- Q2. ビルを利用するのに困ったことは？
駐車場料金が安い、（2時間は無料にして欲しい）、駐車場の利便性が悪い
入口が解りにくい、立体駐車場は入りにくい、1万円札は利用できない
店舗がないなど
- Q3. 日常生活で困っていることは？
特にな
主人の理解がない、子供との時間がイライラする
屋内で遊べる施設がもっと欲しい、ママ友が出来ない、子供を預けるところが少ない
はだっこの託児料金（平日1時間700円、土日1時間800円）が高いなど

アンケート結果について

Q1 は以前にもクラシティ半田にあったお店なのだが、それでも利用者が少なくお店が撤退したのは、クラシティ利用者のニーズに合っていなかったからと推測される。

Q2 は駐車場料金についての不満が際立って多く、同じ建物なのに、1・2階は商品を購入すれば2時間無料で、3階だけ1時間無料であるのは利用者にとって不便で理解しにくい差別的料金制度である。

Q3 は子育てについての率直な悩みもあるが、「特にない」というのが多かった。つまり、はんだっこ利用者については、日常生活にある程度の満足があり、それだけ市民の生活レベルが高いことが推測される。

これらの結果を受け、子供向けカフェや雑貨販売、フリーマーケットなどを募集し実施した。また、生活に困っていることというより、子育てをしている人たちの日常が楽しくなるようにという考えにより、粘土遊び、落書き部屋、お昼寝アートの写真撮影、子供カラオケコンテストや音楽コンサートなどを企画とした「ぴよんぴよんフェスタ」（子育て世代をターゲットとした駅前を擬似的に作ったもの）を開催した。

【結果】

ビルの開店前から親子連れが集まり、終了時間までにぎわっている企画もあった。経済効果の指標としては、クラシティ半田 2 階の店舗である飲食店（千之助）のお昼の弁当の売り上げが 2 倍以上になったことが挙げられる。また、想定外の効果としては、3 階のはんだっこの利用者が 3 倍となり、また新規のはんだっこ利用者登録も増えたことである。

以上の結果は、子育て世代をターゲットとした駅前活性化という仮説を立証するものと言える。

（事業計画）

子育て世代にワークショップ・実地検証への参加を募り、子育てという視点から中心市街地の活性化を考えた。

- 4 月 アンケート作成
- 5 月上旬 参加学生募集
- 5 月下旬 アンケート実施
- 6 月 友育ネットの子育て世代の方々とのワークショップ

7 月、10 月、11 月、子育て世代の人や学生を交えて、どのような事業や活性化できるかワークショップを行った。

11 月 お母さんたちのアイデアや作品が活かせるチャレンジショップの実施を予定していたが、クラシティ半田が改装になるため、1 日限りの事業を実験的に行った

子育て応援イベント「ぴよんぴよんフェスタ」の実施（11 月 15 日（日）10 時～14 時 クラシティ半田 1・2 階）

12 月 「ぴよんぴよんフェスタ」事業検証を行った。

開催内容 来場者 約 400 名

子供カラオケ 3 組、子供合唱団 1 組、フリマ 2 組、アート雑貨販売 9 組、コーヒー販売 1 組、スイーツ販売 1 組、子供向けお菓子 1 組、落書きスペース、お昼寝アート写真、粘土遊びコーナー、座敷スペース、授乳スペース

- ・こういうイベントをもっと開催して欲しい
- ・粘土コーナー、落書きコーナーなど常に人がいた
- ・ステージがアットホームで音楽が人を引き付けると感じた
- ・子供のステージでは最後まで人がいた
- ・ステージに参加した子供の成長にもつながった
- ・1 階での弁当販売が通常約 2 倍あった
- ・はんだっこ利用者が通常約 3 倍あった
- ・はんだっこに初めて来る人もいた
- ・1 日だけだったが、来場者は普段より多く、初めてのはんだっこ利用者もいた

テーマを明確にすることにより、人は集まりやすく、楽しみを見つけ同世代ということや、同じ境遇ということもあり、つながりやすくなる。

2 月 研究成果報告書の作成

優れた効果・成果があがった点

- ・子育てというテーマの下、人の賑わいは明確になりそれを目的とした雑貨やカフェの出店希望者の

需要があり、それを目的として、来場者が楽しそうと感じることができ、生活への活性化の期待がもてることがわかった。

- 将来の駅前活性化について、これまでは、観光客誘致、商業の発展、子育て支援など、みんなに来てもらえるまちづくりを理念として掲げてきた。その結果が、現状の閑散とした状態であり、リニューアルをしようとも、方向性を変えない限り同じことが繰り返される可能性がある。現に、イオ

ンなどの大型店舗の動向に着目すると、子育てを重点に置いた店作りとなっており、子育て世代をターゲットとした駅前活性化は、可能性の1つであると考えられる。

委嘱期間終了後の今後の展望

意見書として、半田市とクラシティ運営会社「株式会社はんだ賑わいビル開発」などに提出し、将来のまちづくりと店舗運営に関する参考にしよう。